

令和 8 年度 東京都立大森高等学校 学校経営計画

(定 時 制 課 程)

校 長 須 黒 祥 子

I 目指す学校

1 スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、心身の健全な発達を図り、良識ある有益な人物を育成します。生活規律・授業規律を重視し、誰もが安心して学べる環境を確保するとともに、地域に根差し、信頼される学校を目指して、生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な支援を行うことで、自立や社会参加に必要な資質と能力を育成します。

2 教育目標

- (1) 豊かな個性と自主・自立の精神をそなえた生徒を育成する。
- (2) 正義と自由を尊び、規律を守る生徒を育成する。
- (3) 社会へ奉仕する心や他者に対する思いやりの心を持ち、人権感覚を備えた生徒を育成する。

3 スクール・ポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力)
 - ・ 望ましい社会生活を送る上で必要な資質と能力を備えた生徒。
 - ・ 心身ともに自らの健康を保持増進できる能力を持った生徒。
- (2) カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施)
 - ・ 豊かな社会生活を送る上で必要な基礎・基本の学力から高校卒業生として身につけるべき学力を段階的に身につけられるようにする。
 - ・ 日本語を母語としない生徒には、「取り出し授業」に加え、「特別の教育課程」による日本語指導を実施して、生徒の学習及び生活上の課題に対応する。
 - ・ 社会的自立を促すために、実技や実習の充実を図る。また、特別活動等を通してコミュニケーション能力を育成する。
- (3) アドミッション・ポリシー (求める入学生の姿)
 - ・ 授業を大切にし、基礎・基本的な学習から積極的に学び、社会生活に必要な知識や態度を身につけようとする生徒
 - ・ 学校のルールを守り、他者を思いやりながら学校生活を大切にしようとする生徒

II 中期的目標と方策

目標	方策
ア 学習の保障 基礎的基本的な教育内容の定着	①わかる実感のある授業、実験・実習の重視、デジタル機器の活用推進 ②自立や社会参加、進路実現につながる指導方法の工夫
イ 心身の育成 人権意識、規範意識の醸成と自他の尊重 安心安全で居心地のよい学校づくり 心身の強化と社会資源との連携	①人権意識の醸成と安心安全な学習環境の確保 ②特別活動を通じた役割意識の醸成と成功体験 ③規範意識の育成 ④給食を通じた食育の推進 ⑤積極的に運動に親しむ体力向上と健康の増進

ウ 情報化・国際化の推進 デジタルスキル、グローバルスキルの向上 多様性への理解と共生の推進 様々な事業への積極的参加	①一人1台端末の効果的活用の推進 ②日本語支援の取組の推進 ③英語で伝えようと努力する態度の育成 ④学校外の様々な公開事業への積極的参加の促進
エ 自己実現・進路実現の推進 校内外の資源との適切な連携 見学・体験等を通じた情報収集と実践	①特別活動、部活動への積極的参加の促進 ②保護者連携の推進 ③医療、福祉、カウンセリング、ソーシャルワーク等の専門性の高い人材や組織・機関との連携 ④SNS等の適正利用指導と躊躇しないSOS発信力の育成

Ⅲ 今年度の取組目標と方策、数値目標

	目標	方策
(1) 教育活動・学校経営全般	<p>ア 在学中の学習意欲を喚起し、卒業後も学び、考え、行動できる生徒を育てる。 4年間在学する定時制教育の良さを最大限取組に生かす。</p> <p>イ 全ての教職員が主体的に学校経営参画意識をもち、それぞれの役割を果たしながら、建設的な改善提案のできる職場風土を醸成する。</p> <p>ウ 服務事故ゼロ、学校事故ゼロを実現する。</p> <p>エ 生徒の心身の健康保持増進のために、教育活動に取り組む教職員の適正なライフ・ワーク・バランスを図る。</p> <p>オ 経営企画室機能を最大限活用し、人財や施設設備等の校内資源を最大限活用しながら、教育環境の向上を図る。</p>	<p>① 文部科学省及び東京都教育委員会による施策等への取組と教育課程との確実な連携を図り学校の居心地を向上させ不登校を防止する。個に応じた丁寧な指導を行う。</p> <p>② 前例踏襲に陥らないよう、各種会議の機能強化を図るとともに、効果的な校内研修を実施する。</p> <p>③ 教職員が高い倫理観と公務員としての自覚を持ち、体罰や個人情報紛失等の不適正事象を起こさない職場環境を維持する。常に生徒の安全に配慮した指導を行い、学校事故を防止する。</p> <p>④ 情報共有と引継ぎを大切にし、職務の属人化を防ぐ。</p> <p>⑤ 職員室と経営企画室の連携を推進し、清潔で安全な学校施設を維持する。自律経営予算、生徒会や学年積立金等の私費についても適正に管理し活用する。</p>
	・全教科で一人1台端末活用が年間授業数の40% ・生徒の「学力がついた」と感じる割合60%	
(2) 学習指導	<p>ア 日々の授業を大切にすることで基礎基本の学力の確実な定着を図る。</p> <p>イ 知識・技能だけでなく主体的に学びに向かう力を育成し、自ら考えて課題解決に至ることができるよう、思考力・判断力・表現力を鍛える。</p> <p>ウ 情報機器を適切に活用し、収集した情報について有用性や正誤の判断を自ら行いながら取捨選択して理解を深め、発信ができる力を</p>	<p>① 授業規律を保ち、毎回の授業時間中に学びの実感を得させる。効果的な指導法の共有や研修を行う。</p> <p>② グループ形式の討論・発表・レポート作成等、個人にとどまらず他者との交流を通じて、多様な価値観に触れ、考える機会を設定する。生徒が自己の変容を記録し振り返りができる工夫をする。</p> <p>③ 双方向オンライン授業の実践、端末による課題発出と提出、画像による実験実習の記録と考察等、単純な機器操作にとどまらない機器</p>

	つける。	活用を実践する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒及び中途退学者 1 名以下 ・教職員の年休取得平均 20 日以上 	
(3)生活指導	<p>ア ルールとマナーの必要性を理解させ、人権と生命を尊重する、礼儀正しい森高生であることを求め続ける。</p> <p>イ 生徒が自らの未熟さと相手の立場とを理解し、適切なコミュニケーションがとれるように考えたり実践したりする場を設ける。</p> <p>ウ 時間を意識して行動し、準備をさせる。</p> <p>エ 清掃や整頓に進んで取り組み、居心地のよい校内環境を維持する。</p>	<p>① 生徒、教職員共に挨拶を励行し、教職員が大人として生徒のよきモデルとなる言動を取る。また自転車乗車時交通ルール順守と自らの命を守るヘルメット着用を推進する。</p> <p>② 特別活動や部活動等、様々な機会をとらえ、人間関係の構築には、適切な距離感や言動が必要であることを学ばせる。異年齢集団であることを強みと捉えて指導に生かす。</p> <p>③ 遅刻欠席の削減、授業規律の維持に取り組む。規則正しい生活習慣が学力向上と進路実現につながる。</p> <p>④ 全員が協力できる利他の意識を育成し行動させ、全校で居心地よい環境を作る。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事参加率 90% ・遅刻者数 1 日 2 人以下 	
(4)進路指導	<p>ア キャリア教育の観点から授業や特別活動と「総合的な探究の時間」を意図的計画的に関連付け、単なる出口指導にとどまらない進路指導を行う。</p> <p>イ 学年進行に応じた計画的な指導を行い、個に応じた丁寧な対応を継続することで、進路希望を諦めさせない。安易に転退学の選択をさせない。</p> <p>ウ 進路実現が日々の学習や学校生活と一体化したものであることを意識づける。</p> <p>エ 生徒にとって生涯にわたり知識を広め経験を深める機会があることを教職員が意識し、紹介する。</p>	<p>① 進路指導部と学年との連携を密にし、迅速に情報と指導計画を共有し目標と成果の点検、改善を行う。「スキルアップ推進校」の取組を活用する。資格取得を推進する。</p> <p>② 在学中の進路指導や個別面談のポートフォリオ化を図る。</p> <p>③ 各学年で三者面談を実施し、生徒・保護者との認識のずれを防止する。保護者の進路学習の場とする。</p> <p>④ 希望者参加型の取組にも積極的な興味関心を持たせる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブキャンプ、グローバルスキル参加者 5 名 ・進路決定率 100% 	
(5)特別活動・部活動・教育相談	<p>ア 教職員は正しく「いじめ」の定義を理解し、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。</p> <p>イ HR や行事を通じ、協力や助け合いの経験を通じ多様な価値観や立場の違いを知り、社会で生きる力を育成する。</p> <p>ウ 防災教育の推進に取り組む。</p>	<p>① 「生徒指導提要」「いじめ総合対策」等の基本事項を踏まえ、本校の学校安全計画・人権教育の全体計画等を推進する。いじめ防止や生命尊重、SOS の出し方等を授業として実施することで理解促進を図る。</p> <p>② 文化祭・校外学習等の行事において取組目標を明確にした指導を行い、授業や「探究」との意図的関連付けを図る。</p> <p>③ 生徒だけでなく教職員が自校の防災対策への意識を持ち、防災訓練の内容の充実を図る。自助共助の考えに基づき、自らの生命を守るだけでなく、地域連携や奉仕的活動等の</p>

	<p>エ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを楽しんだり、努力して成果を得る体験をしたりする場を多数設定し、学校の居心地を高め、心身ともに健康で明るい学校生活にする。</p> <p>オ 特別支援教育への理解を深め、組織的な教育相談体制を構築する。</p> <p>カ 給食の喫食率を高め、食育を推進する。</p>	<p>社会に貢献する意識を育成する。</p> <p>④ 健康教育、性教育を含む生徒の多様なニーズに応じた活動を提供する。また、部活動に積極的に所属し活動することを通じ、良好な人間関係の構築や自己有用感の体得の場とする。</p> <p>⑤ 特別支援学校との地域ネットワークを活用して発達特性への適切な対応への理解を深める。また、自立支援チーム継続派遣校として、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携して生徒を支援し、進路実現を図る。</p> <p>⑥ 食の意識を高めることと基本的生活習慣の確立とが密接に関連していることを踏まえて、生徒を指導する。保健や家庭の授業とも関連付ける。</p>
<p>・部活動加入率80% ・SC、YSW活用のべ15人 ・給食喫食生徒数80%</p>		
<p>(6) 募集広報活動</p>	<p>ア 学校説明会・見学会、中学校訪問や地域交流行事等に積極的に参加し、学校の露出を増やす。</p> <p>イ 生徒の姿が見える広報活動を意図的に計画する。</p> <p>ウ 学校ホームページだけでなく、SNSを活用するなど、視覚情報の充実した広報媒体を作成し、積極的な情報発信を行う。</p> <p>エ 夜間定時制の特色をアピールする。</p>	<p>① 教職員全員が複数回参加の全校態勢で取り組む。地域の若者支援施設等との交流を行う。</p> <p>② 「都立学校魅力発信事業」による広報媒体と積極的にリンクさせる。機を逃さず随時情報の更新を図る。</p> <p>③ 受け手の立場になって考え、ポスターやパンフレットの質を高める。</p> <p>④ 働きながら、自己のペースで学び直しができる、個性的な部活動、多様性等、全日制とは異なる良さに注目して積極的にアピールする。</p>
<p>・地域交流行事2回以上 ・HP更新及びSNS発信120回</p>		